

## 「国際・文化科」と「現代社会」の展開について

荒 木 重 治

はじめに

4年前、前回の紀要の中で私は、最後の部分で次のように書いている。

『教育課程の改変が間近に迫っているが、それ故にこそ地歴公を分離しない、融合した教科を新たに作っていく必要があるのではないかと思う。…中略… 本校の場合、各教科で既に「教材の自主編成」は行なわれており、社会科もその例外ではない。しかし、これからやらなければならないのは「地歴公」の枠を超えた自主編成である。これまで社会科では、「地歴公三分野の関連」ということがよく問題になっていたが、これからはその問題をもう一歩突っ込んで考えていく必要があるわけだ。その際、新たに必修となる「家庭科」との関係も考えていかねばならないと思う。環境問題や物価問題、エネルギー問題などは家庭科との関連を持つ部分が大きいのので、両者を融合することによって、より広い視野から問題を見ることが出来るのではなかろうか。家庭科と、現在の社会科が相互に乗り上げて授業をやっていく方向を考えていくことで、新しい「社会認識を育てる教科」が出来るのではあるまいか。現在の地歴公の内容、および家庭科の内容をすべてバラして、講座制の授業に再編成することが可能なのではないかという検討も、まだ緒についたばかりではあるが、既に始めている。先ほど私は、学校教育の中に「従来の教科の枠を超えた教科」を創設することに否定的な見解を示したが、それはあくまで「無理をしてまで」という意味であって（例えば、数学と国語を融合する教科などはかなりの無理が必要であろう）、重複する部分があって工夫しやすく、効果が期待できる場合は積極的に研究していくべきであろうと思っている。』

これを書いた時点では、正直言って「まだまだこれからだなあ。教材の再編成なんて当分無理だろうな」と思っていた。しかし、その時期は意外と早く、そして思いがけずにやってきたのである。本校が、文部省の研究開発の指定を受け、「（仮称）国際・文化科」の研究開発を始めたのである。

この「（仮称）国際・文化科」の導入に際し、一年生時における週2単位を捻出するために、「現代社会」から1単位を放出することになり、4単位が3単位に減少することになった。多くの教科では、新教科設置に伴う単位数の減少についてはあまりいい顔をしないというのが一般的な様だが、一年の教科の中では、現代社会くらいしか放出可能なものがないという現実的な事情もあったし、もう一つこれを機会にやってみたいこともあって、放出を了承した。やってみたいことというのは、新教科開発の為に一単位放出したことを名目に、「現代社会」を思い切って時事問題解説をメインにした授業に編成し直してみることである。これまでも、前回の紀要に述べたように、テストに時事問題を題材にした問題を出したりしてはいたが、授業はあくまでも年間の授業計画にそって行ない、時事的題材については授業で特別に扱うということをしなかったこともあって、せいぜい人名や項目名を問うというような表面的出題しか出来なかったというのが現状だった。そこで今回は、メインを時事的話題解説とし、その解説の中に何とか、必要事項を盛込んでいくことは出来ないか、と考えたのである。うまく行ったか行かなかったかは、後に述べることにするが、今回はその実践報告を中心に、一年時における社会科の在り方に関する私見を述べてみたいと思っている。相変わらず論理的な文章が苦手、感想をただ書き連ねただけのような文章になりそうだが、ご容赦いただきたいと思っている。

## 2. 生徒は社会科に何を期待しているか

最近の生徒達は、現代の社会に対して、どのような問題意識を持っているのだろうか。ここ三年ほど、四月当初に新入生達に対して「今の社会に起きていることについて、疑問に思っていることがあれば書きなさい」というアンケートをやることにしている。配布する紙はB5判を半分にした物なので、生徒自身の詳しいコメントはあまり期待できない。また、ほとんどの生徒が疑問に思っていることを箇条書きに並べているというのが現状である。（ごく少数、事柄に対する批判的なコメントを付けてくる生徒がいることはいる）

以下に掲げたのが、生徒達が出してきた疑問点である。重複しているのがかなりあったので、それは省いたが、かなり多岐にわたっている。

- ・現在のロシア情勢について知りたい。  
（政治の状態、経済の状態）
- ・不況なのに円高なのは何故か。
- ・外国為替変動の仕組みについて、知りたい。
- ・現在問題になっている選挙制度改革について、知りたい。
- ・世界の核兵器の現状について、知りたい。
- ・国会の証人喚問の仕組みについて、知りたい。
- ・派閥がなぜ出来るのか、知りたい。
- ・株価変動の仕組みについて、知りたい。
- ・株式市場の仕組みについて知りたい。  
（市場で使っている指サインについて知りたい。）
- ・大統領の権限について知りたい。  
（日・米・英の政治制度の違いについて）
- ・土地の値段はどうやって決まるか。
- ・日の丸・君が代問題について、知りたい。
- ・世界の死刑制度について、知りたい。
- ・国連の平和維持活動について、知りたい。
- ・世界のエネルギー事情について、知りたい。
- ・日本は、黒字国と言われているのに、赤字国債を発行しなければならないのはなぜか。
- ・原子力発電の仕組みについて知りたい。
- ・カンボジア情勢について知りたい。
- ・「汚職の歴史」を知りたい。
- ・「バブル経済」という言葉をよく聞くが、内容がよく判らない。
- ・「財政投融资」とは、一体どんなものなのか。
- ・国連に関するいろんな事を知りたい。
- ・国家予算の決まり方が知りたい。
- ・「天安門事件」とは一体何だったのか。
- ・旧ユーゴは、なぜあんなに混乱しているのか。
- ・平和憲法と自衛隊の関係は矛盾しないのか。
- ・裁判の時によく言っている「保釈」とは、一体何なのか。  
（具体的には、金丸氏の保釈問題を指している）
- ・北方領土問題について、歴史的経緯を知りたい。

- ・脳死問題について、知りたい。
- ・消費税を始めとする税金の問題について、知りたい。  
(なぜ、所得減税をすると消費税増税なのか)
- ・「割チョー」「割コー」とはどんなものなのか。
- ・「ゼネコン疑惑」の詳しい内容を知りたい。
- ・コメ市場の開放問題について、知りたい。  
(ウルグアイ・ラウンドとは何なのか)
- ・北朝鮮はなぜ、核査察の受け入れを拒否しているのか。
- ・特許の仕組みについて、知りたい。
- ・政治資金の仕組みについて、知りたい。
- ・ODAの仕組みについて、知りたい。
- ・本はどうして値引きしないのか。
- ・「再審」とは何なのか、よく判らない。
- ・「恩赦」とは何なのか、なぜ行なわれるのか。

以上見てみると、現在の生徒達がまさに「情報の洪水」の中でもみくちやにされていることがよく分かる。現代は、情報化社会と言われている。「知りたい情報が瞬時に自分のもとに届けられる仕組み」は、確立している。しかし、よく考えてもらいたい。「仕組みが確立している」ということと、「実際に届く」ということは、別物なのである。「最新情報を即座に入手するシステム」を、自分の手元に置こうと思えば、かなり高度な専門知識と、莫大なコストがかかってしまうというのが現状だ。各種データバンクにアクセスすることができるコンピュータ通信をやろうと思えば、コンピュータに関する知識とパソコンシステム一式が必要である。安くなったとは言え、パソコンシステムは、まだまだ「一家に一式」という迄には普及していない。また、日本人一般に「情報を金で買う」という考え方が普及していないということも、一つのネックになっているようだ。鳴り物入りで始まった、郵政省のキャプテンシステムの普及が今一つ進まないのもその辺に理由がありそうである。ハイテク利用の最新機器はコストが高いということになれば、低コストの代表選手、百科事典はどうだろうか。一家に一セットはあるはずの百科事典であるが、「家具の一種」と化してから久しいということもあって、内容が陳腐化しているし、何よりも、「さあ、引くぞ」という心理的重さが、最近の生徒達には、すこぶる評判がよくないようだ。本校の図書室でも、百科事典は、入口付近の良い場所にはあるが、手の届きにくい最上段に並べられている。手に取りにくいこと甚だしいのだが、生徒達から不満は不思議と聞かれないようだ。生徒達の百科事典離れは意外と進んでいるようだ。では、今流行の各種用語集はどうなのだろうか。「イミダス」「知恵蔵」「現代用語の基礎知識」と同じような体裁の物が売り出されているが、普及率はかなり高そうである。年毎に用語の入れ替えも行なわれ、最新情勢に対応しようとしているが、反面、事柄の起源から調べようという向きには、ちょっと不満が残るという問題点はある。しかし、手軽さから考えると、今、最も使いやすい情報源と言えるのではなかろうか。しかし、生徒の利用度は、これまた高いとは言えないようだ。

かなり話が横道に逸れてしまったが、このような生徒の現状の原因は一体どこにあるのだろうか。私は、二つの原因が考えられると思っている。一つは、今の生徒達が置かれている時間的状况。長期的に見れば「受験」、短期的に見れば「明日の予習」に追われている彼らにとって、分からない言葉を自分で調べるといふ余裕はないのである。「分からない英単語」を調べ

ることはあっても、「分からない経済用語」を調べることはない。もっとも、この「余裕がない」というのは、精神的なものであって、実際に「時間的余裕」がないのかと言うとそうではない。ただ、ここまで、精神的に追い込まれているということの方が問題が大きいのだが、この分析については、今回は触れないことにしたい。今一つの原因は、彼らにとって、情報というのは、向こうから流れてくるのであって、こちらから求めるものではない、ということである。生まれた時から、カラーテレビという「情報ターミナル」と対面しながら成長してきた彼らにとって、チャンネルを替えることによって情報を選択することはできても、自分から情報を求めていくということは非常に不得意なのである。そして、小学生時代から行なっている「選択式の客観テスト」がこの傾向に拍車をかける。

現代は情報化社会である、と言われるようになってから久しいが、今の社会は、自分の欲しい情報がすぐ手に入る、という意味では、決して情報化社会とは言えないと思う。種々雑多な、価値評価が行なわれないままの情報のようなものが、我々の周りを渦巻いている、と言うのが現状なのではないだろうか。そういう意味では、「情報に化かされている社会」と言えそうである。

しかし、社会の現状をこのように悲観的に見ながらも、彼らの疑問点を見てみると正直言ってホッとする。意外と健全な疑問を抱いているではないか。

「外国為替相場の乱高下」「株価変動」「カンボジア情勢」等々と、彼らの生活の中にも否応無しに現代社会が抱える問題が入り込んできている。しかし、これらの問題は彼らの生活に密接な関連をもつようであり、そうではないような、非常に微妙な問題である。アンケートの中におもしろい表現があった。「世の中は不況不況と騒いでいるけれど、今一つ私達には実感が湧かないのは何故なのでしょう」というものである。これを書いた生徒には、親の「たとえば自分たちは苦しくても、子供達には不自由な思いをさせたくない、家が苦しいなどと思わせたくない」という気持ちが分からないのだろうか。子供達が不況を深刻に認識するような状態に至れば、事態はかなり深刻である。もっとも、本当に不況に関係のない生活水準ということも、可能性としてはあるわけだが。

このように今の子供達は、現代社会の「問題」をかなりの確に「項目」としてはとらえているようである。しかし、テレビスクリーンの向こうに鮮やかな映像として描かれれば描かれるほど、彼らの意識には「非現実的なもの」としてしか捉えられないのではないだろうか。これを何とか、自分たちの問題として捉えられるようにするのが、学校教育の使命なのではないだろうか。しかし、学校教育という場自体が、一般の社会から一種隔離された特殊な世界として存在しているのではないだろうか。日常生活の中ではお目にかかることの無い数式が飛び交い、古語が乱れ飛び、世間一般では「劇薬」と称されている薬品で実験をする。非日常の世界そのものだ。そういう学校の中でモノをいう価値観もまた、日常性からはちょっとかけ離れている。学校秀才＝実社会の勝利者ではないということがその点を物語っているのだろう。

そういう点、「本はなぜ値引きをしないのだろうか」という疑問点は、まさに自分の生活の中から出てきた、貴重な疑問である。ちょっと汚れてしまっている本など、定価で買うのは何か損したような気分になる。どうせ買うならキレイな物をと、積んである本の3冊目位をひっぱり出すという経験は誰にでもあるのではないか。こういう疑問点を解決していく授業をしたいと、常日頃考えているのだ。

### 3. 中学校の「社会科」とは何だったのか

では、彼らにこのような現状認識をさせるに至った中学校における「社会科」とは、一体何を彼らに与え、また残したのだろうか。夏休み前に次のような項目のアンケートを行なった。なお、回収率は60%であった。

1. 中学校の時、社会科の地理、歴史、公民の各分野は好きでしたか。
2. 好きだった理由はどんなところですか。
3. 嫌いだった理由はどんなところですか。
4. 中学校時代に、社会科で習った、印象深い事柄は何ですか。
5. 中学校の社会の時間に、こんなことを勉強したかったと思うことはありませんか。具体的に書いてください。
6. 4月にも聞きましたが、今の時点で現代社会の時間にこんなことをやってほしいと思うことを書いてください。
7. 4月からこれまでにやった授業で、いちばん興味深かったものはどの題材ですか。

結果を簡単にまとめておくと

1. 好き 地理 42% 歴史 70% 公民 36%

ほぼ予想どおり、歴史は好きだが、公民は嫌いというパターンである。

2. 好きだった理由では

地理…そこに行ってみたくなる 各地の様子がよく分かる 地図を眺めていると楽しくなった

歴史…流れがはっきりしている 物語のようである 昔の様子が想像できる 興味深いエピソード 歴史上の人物に親しみを感じた

公民…人権に興味がある 新聞がおもしろくなる 大人になったような気がする 社会の仕組みがよく分かる

よく似た意見はまとめさせてもらったが、これもほぼ予想どおり。生徒達は、地理分野のもつ「旅行記的側面」、歴史分野のもつ「物語性」、公民分野のもつ「有用性」に魅力を感じていたようである。これからの社会科を考える上で、非常に興味深いものがある。

3. 嫌いだった理由

これは、ごく細かい理由を挙げていけばキリがないが、極論すれば「覚えるのがいやだった」にまとめることができる。

生徒達にとって社会科とは、まず「覚えなければならない教科」であったようだ。そして、覚えることがたまたま得意で、よい点を取ることができた生徒が、上に挙げたような理由で「好きになって」いったと考えることができる。しかし、ここで注意しておかなければならないのは、「色々な土地の話聞くこと」「歴史上の色々な話を聞くこと」「今、社会で起っている色々な事件に関する話を聞くこと」が嫌いなのではなく、「それをどれだけ覚えたかによって評価されること」が嫌いだった、ということである。そして、「覚えるのが嫌い」ということと、「覚えられない」ということは違う、ということも重要なことだろう。何度も聞くことによって自然に覚えてしまう、ということはいくらかもあることだが、量や期限を決められるとなかなか覚えられない、というのは、我々も生徒も同じである。

### 4. 印象深い事柄

これは、残念ながら多くの生徒が、ほとんどない、記憶にないと答えている。我々も

「他山の石」とすべきであろう。ただ、少数の生徒が書いた答を読んでもと、我々の感覚から言うと実に素朴なことに感動していることが興味深い。「特産の桃を持って全国を宣伝して歩いた岡山県知事の話」「札幌がリトル・トーキョーと呼ばれていること」「スコットランドがイギリスの一部だった」「頼朝が馬から落ちて死んだ」「おもしろい地名」等々。

生徒達は、新しいこと、意外なこと、を知ることに対しては新鮮な興味を持っているのだが、これまで知らなかったことだから、一回聞いたからといって覚えられとは限らない。それなのに、覚えていたから良い、覚えていないから駄目、と評価されるのはたまらない。そのことを考えると、新しいことを聞くこと自体を心理的に拒否することになる。つまり、「そんなこと知らなくてもこれまでやって来れた。たぶんこれからもやっていけるだろう。そんなこと覚えて何の役に立つんや」ということになるのだ。素朴な興味を失わせない授業を考えていかねばならないと思う。

#### 5. こんな勉強がしたかった、という事柄

これは、地理・歴史・公民の各分野にわたって、かなり個人的な趣味が並べられた。ただ、共通して言えることは、いわゆる「高校受験参考書」に大きく取り上げられているようなことは書いてなかったということである。

「源平合戦や真田十勇士について」「株や税金の裏話」「日本や世界各地の名産品」等のいわゆるエピソードといわれるものである。こういう話は、教師が授業の本筋（と教師が思っているもの）の合間につなぎとして入れているが、往々にして、何年たっても残っている部分とは、こういう話なのである。これは、実は我々教師にとっては、強烈なアンチ・テーゼである。我々が伝えたいと思っているものが実は伝わらず、我々が伝わらなくてもよいと思っていたことが、うまく伝わっている。そして、そういう話を現在社会に出て活躍していく卒業生から聞くとしたら、一体我々の授業とは、彼らの成長にとってどういう役割を果たしたのだ、という事になるのだ。二つの理由が考えられよう。一つは、授業の内容は、意識しないままに彼らの血となり肉となり、現在の社会生活に役立っている。もう一つは、もともと授業の内容なんて、社会生活と全く関係のないレベルのものであった、というものである。両方ともに極論であり、実際はこの中間のところだろうと思うがこれまた学校教育というものを考えていく上で、重要な問題を投げ掛けていると思う。

#### 6. 現代社会の時間にとりあげて欲しい事柄

これは、4月当初に聞いたものとかかなり重複するので、省略する。

#### 7. 4月以来の題材で興味深かった事柄

これも、4月から7月という4ヵ月間だけの話なので、題材は少ないのだが、多かった順に挙げると、「カンボジア情勢」「（服部君事件に絡む）アメリカの裁判制度」「選挙制度」「株とバブル」になる。やはり、マスコミでの取り上げ方のウエイトが、かなり反映しているようだ。社会生活に与える影響となると、「バブル崩壊」が一番大きいが、弾けて久しいバブルの話よりも、「カンボジア」「服部君」の方の報道ウエイトの方が大きかったようだ。生徒の興味は、マスコミの姿勢にかなり影響を受けるのだが、肝腎のそのマスコミが、生徒の知りたいことに的確に答えてくれないこともこれまた事実のようだ。学校の教育力は、現在かなり低下していて、生徒は情報の多くをマスコミから入手している、ということが言われ始めて久しいが、確かに、マスコミは、項目としての情報を与えてくれはする、しかし、内容の整理、要約まではやってくれないというのが実情のようだ。ここに、学校教育の出番があるのではないかと思うが、それについてはまた項を改めて述

べたいと思う。

それでは、彼らにこのような感想を持たせるに至った「中学校における社会科」では、一体どのようなことが行なわれているのだろうか。残念ながら、個々の中学校で、個々の授業時間にどのようなことが行なわれているかを知る手立てはあまり無い。ある時間には、生徒の明るい笑いに包まれた盛り上がった授業が行なわれ、またある時間には生徒に覚えることを要求する無味乾燥な授業が行なわれていることだろう。これは自分の授業を振り返ってみれば、そう的外れの推量ではないだろう。高校の授業が、どう強がってみても最終的に「大学受験」という呪縛から逃れられないように、中学の授業もまた「高校受験」という呪縛から逃れられないだろうことは想像に難くない。ここに至って問題はもはや個々の教師の力量や責任の範囲を超えている。

では、中学生たちは高校を受験するにあたって、どのような「力」を要求されているのだろうか。そこで市内の中学校で今年実際に使われている中三用の「社会科総まとめ学習ノート」を譲ってもらい、巻末の入試直前模擬テストを本校一年生にさせてみることにした。秋の新人戦の特別時間割りを利用したので、全員を対象にすることは出来なかったが、誤答率にそう大きな誤差は出てこないのではないと思われる。参考までに、末尾に問題と誤答率を掲げておいた。

問題は、東京法令出版発行の「社会の重点と対策」の「入試直前模擬テスト1回～3回、および入試直前総合模擬テスト」を使用させていただいた。

さて、誤答率の高かった問題であるが、第1回から見ていくと、大問1の(1)の①がある。誤答の中で圧倒的に多かったのがタイである。米の収穫量が世界一という点に惑わされたのかもしれないが、1畝あたりという部分を見逃している。近年の重化学工業の発達と造船業の成長という部分に注目すれば韓国が分かるはずである。

(2)に関しては、乾期に関する記述がなかったり、理由に関する記述が全くない生徒がいた。選択には強いが、記述には弱いという、最近の生徒の傾向がよく表れていると思う。

大問2の(2)「承久の乱」と同じ頃のものを探す問題だが、「承久の乱」の中心人物として後鳥羽上皇を知っていれば、そして、定家の選である「小倉百人一首」が後鳥羽上皇への定家の思いを込めたものであるというエピソードを知っていれば、こんな高い誤答率にはならなかったのではないか。このへんに関しては、また後に感想を述べたいと思う。

(5)の②に関しては、農地改革という言葉は知っていたが、目的については解答なしという生徒が多かった。一問一答式の学習をする傾向が最近の生徒には増えているのではないか。

第二回大問1の(1)に関しては、ウという誤答が多かったが、富山から新潟にかけての日本海側の地形が分かっていたら間違えるはずのない問題である。

(2)に関しても、約2割の生徒が、無関係なものとして大井川を選べなかったということである。大井川の川止めの話や、「東海道中膝栗毛」の話を知っていれば、間違えるはずのない問題である。

大問2の(2)に関してはアイウ各々3名ずつの誤答があったが、物語としての「太閤記」を読んでもいればおのずと正解が導けたはずである。

(4)は少々難問である。アウが室町時代の記述であり、エが江戸時代末期の記述であることは、かなり深く学習していないと難しいようだ。

(6)に関しては、護憲運動、大正デモクラシーという誤答が多かった。

(7)に関しては、「治外法権の撤廃」も書いてしまったという間違いがほとんど。条約改正というと、「関税自主権の回復と治外法権の撤廃」とワンセットで覚えていることによる間違いであろう。

(8)に関しては、三・一事件という解答が多かった。確かにこの辺は分かりにくい。明治以降が駆け足になってしまうということと、反日運動が全体的に軽く扱われているという二つの点が原因になっているのだろう。

大問3の(2)であるが、我々にとって忘れることのできない1973年の第4次中東戦争をきっかけとした「石油危機」も、今の生徒達にとっては「生まれる前の歴史的事実の一つ」になってしまっているということだ。だが、もしそうならば「歴史的事実としての石油危機」をしっかりと教えておかねばならないだろう。今回の「米不足騒動」と実は根は同じなのである。

(3)についても、経済の問題と思うから分からなくなるので、最近マスコミを中心に盛り上がってきている「規制緩和」の声（政府が介入すると物の値段は却って上がってしまう）や、大量消費に対応する大量生産による生産性の向上から単価が下がる、という簡単な原則を理解していれば正解が出せる。

第三回大問1の(3)については、さすがに石油を答えられない生徒は少ないが、ターチン油田が出なかったという生徒が二割以上いたようだ。「自習の手引き」には、ターチン油田は中国が自力で開発した油田、この油田開発によって中国は石油輸出が可能になった、とあるが、日本は中国からほとんど石油を輸入していない。知らなくても当然といえるかもしれない。

(6)の①については、石油化学工業を選んだ生徒が約七割いた。確かに、鉄鋼か石油化学かを選ぶのは難しい。ポイントは大阪湾沿岸地方、だろう。この地方にあるのは、製鉄所か石油化学コンビナートかを考えればすぐ分かる。しかし多くの生徒には具体的イメージとして大阪湾沿岸地方の光景が浮かんで来ないのではないかな。いわば、生きた地理教育がなされていない、という一つの証になるのではないだろうか。

大問2の(2)については、選択肢には、各時代を代表する事件が並んでいる。しかし、聖武天皇の治世と結びつけるとなると、ちょっと迷う生徒が出てくるということだろうか。しかし、歴史物語の中には決まって出てくる事柄なのだから、思い切って「物語としての歴史」をやってみるのもよいのではないかな。歴史を暗記物と捉えると難しいという好例のような問題である。

大問3の(1)B(2)Dであるが、公共の福祉、職業選択の自由を答えることができない生徒がかなりいた。しかし、これは問う形式が生徒の一番嫌う単なる穴埋めになっている。確かに穴埋めは、出題者としては一番手軽で、覚えているかいけないかを調べるには、最適な形式だが、反面答える側からすれば、覚えたか否かという一番単純な比較しかしてもらえないという不満の出る形式ではある。もっと憲法の精神を伝えるような授業と出題形式が望まれるところだ。

(6)のアムネスティ・インタナショナルについては、2名を除いて正解がいなかった。無理もない、彼らの日常生活のなかにアムネスティ・インタナショナルの入り込む余地があるのだろうか、また、民間の国際組織の拠り所となっているボランティア活動の余地があるのだろうか。これまた「暗記物だから社会はいやなんだ」と生徒に思わせる問題といえるのではないかな。しかし私はこのテスト・ブックを批判しているのではない。こんな問題で差を付けなければならない、中学校の社会科教育を批判したいのだ。

総合テスト大問1の(2)については、ユニセフを選んで誤答になった生徒がほとんど。さすがにILOやWHOを選んだ生徒はいなかったようだ。最近ユニセフによる募金活動が盛んに行なわれているので、生徒たちにはユネスコよりも身近に感じられたのではないかな。ユネスコによるアブ・シンベル神殿の移築の話に胸をときめかせ、伊豆のユネスコ村に憧れた少年時代を



過ごした我々とは違うようである。そんな彼らにとっては、ユネスコが正解だと言われても「だからどうなんだ」と思わせるような出題である。

大問3の(4)については、誤答の全てがアとエを逆にしたものである。この辺も確かに弱い。先日、日本史担当の山本が、たまたま12月8日に行なわれた日本史のテストの中に「今日は何の日か」という問題を出したところ、「太平洋戦争開戦の日」と答えられた生徒がほとんどいなかったという話をしていたが、太平洋戦争の戦局の推移も含めて、戦争前後の様子がほとんど知られていない。これでは、アジア諸国に対する戦争責任の総括などできっこないし、第二の「一億一丸」状況が生まれて来ないとも限らない。

(5)については、過剰生産という答が多かった。確かに過剰生産でも全く文章として意味は通るのである。ただ、後半の「通貨の発行が引き締められ」という所に着目するならば、「インフレーション」という解答が導ける、ということである。これこそ、「インフレを聞きたいのならもっと聞き方工夫してくれ」ということになるだろう。

以上、かなり長きにわたって問題検討をしたが、実際の所、問題としてはよく工夫され、私も多分この部分を聞くならばこういう聞き方をするだろうな、そういえばこんな聞き方があったか、参考にさせてもらおうと思われるようなものであった。しかし、聞かれる中学生の立場からするとどうだろうか。

また、このような問題で日常的にテストが行なわれているとすれば、当然授業もそれに対応する形にならざるをえない。それは、生徒にとって無味乾燥な授業になるだろうことは想像に難くない。学習しやすいように（教えやすいように、覚えやすいように）系統立てて記述された、最小のスペースに最大の情報を盛込んだ教科書なんて、読んでも面白くないことは、誰もが経験している事実である。

地理分野の教科書は、なぜ九州地方から始まるのか、歴史分野の教科書を一番身近な最近の出来事から記述しようという発想は生まれないのだろうか（現代から近代、近世へとさかのぼっていくのではなく）。公民分野はなぜ政治分野からなのか、最近の子供達には、政治よりも経済の方が身近ではないのか。こんなことを言うと、ある程度は教える側の自由な裁量でやってもらってもいいんだ、という声が必ず出てくるが、教科書の編集姿勢を変えない限り、実は何も変わらないのではないのか。そして、教科書の編集姿勢に対するワク付けが無くならない限り、自由で面白い教科書は生まれないのではないのか、と思う。

中学校で教えている内容は、日常生活を営んでいく上で必要なことばかりである、という意見に対しては、全面的に賛成することは出来ないが、レベル的にはうなずけないこともない。（一度、全教科にわたって、ごく普通の日常生活を送っていく上で必要な知識はどういうものかを、真剣に調査してみる必要があるのではないのか、それも学校の教師以外の手で）ただ、それをどのような形で生徒に提示していくかが問題である。同じ材料でも、料理の仕方によって美味しくもなり、不味くもなる。今の中学校の社会科教育は、せっかくの良い材料を殺すような料理の仕方をしているような気がしてならない。そして、その理由は中学校三年間の位置付けが曖昧な事にあるのではないかと思う。

中学校で義務教育は終わりである。そこで、中学校が終わった段階で社会に出るのに十分な学力を付けておかなければならない（事になっている）。しかし、現実には9割5分を超える生徒が、次の段階である高校へ進学している。では、中学校が要求されているのは、完結したある程度の学力を付けることと、高校への橋渡しをすることのどちらなのだろうか。現時点で、

そのどちらにもなりきっていない点に問題があるのではないか。

学校教育のゆとりが叫ばれて久しい。習得単位数の削減、学校週五日制など数々の制度が導入されている。しかし、子供達はヒマになるどころか、ますます忙しくなっている。推薦制、偏差値追放、観点別評価など、高校入試制度も様変わりを見せようとしている。しかし、子供達の塾通いは無くならない。総合学科の高校、単位制の高校と、新しい仕組みの高校を作る試みも進んでいる。しかし、子供達の競争は一向に無くならない。何故なのか。難しい理論付けをすることは出来ないが、子供達にとって「今」が苦しいのではない、「今」の為に競争をしているのではない、ということは確かに言えるのではないかと思う。全て次の段階の為に「苦しさ」であり「競争」なのではないかと思う。「次」を目指すことによって、苦しさや競争が生まれてくることは、首都圏の小学生を見ればよくわかる。公立の中学校へ進学することに決めてしまえば、小学生時代は、誠に気楽なものだ。遊びにスポーツにと心おきなく熱中することが出来る。だが、一度、私立中学校への進学を志したならば、そこには苛酷な競争と塾通いの日々が待ち受けている。私立中学校の定員と志望人数にギャップがある以上当然のことであろう。そしてこれが、「次」が法律によって保証されていない、中学から高校へ、高校から大学へという段階になるに至って、全国に拡散されることになる。「中途退学」が増えているという現実が指摘する高校の問題点と、大学入試に伴う高校の問題点は、だからまったく違うのである。高校の在り方にバラエティを持たせる事によって「中途退学」問題はある程度解決できるかもしれないが、大学入試に伴う問題の解決は難しいのではないか。“新形式”高校の卒業者を、いや“新形式”高校の卒業者のみを積極的に受け入れてくれる大学が増え、そしてその大学に国民の大多数が魅力を感じるならば、新形式の高校は定着していくことだろう。しかしもしそうでなければ……。

冗談のような話になるが、日本人には「苦あれば楽あり」の諺が染みついているのかもしれない。「次」の為に努力を続ける日本人に対して、「楽な次」と「苦しい次」の二つが提示された時、何故か多くの人が「苦しい次」を選択してしまう。そしてその数があまりにも多いので、「苦しむための競争」になってしまう。そして、この競争は、就職してから、いや就職後も続くのである。

話がかなり横道に逸れてしまったが、この「次の為の競争」をどこかで断ち切らねばならない。本当は、企業を頂点とする、学歴ピラミッド構造が無くならない限り、この競争は無くならない。しかし、ピラミッドを壊すことは容易ではない。とりあえず、中段の石を引っ張り出す事によって壊す努力を始めなければならない。それを私は、中学校教育に求めたいと思う。もちろん、中学校に求めるからには、高校も努力をしなければならない。それが、「国際・文化科」であり、それに対応した「現代社会」である。

#### 4. 国際文化科について

本校では、昨年より研究開発の指定を受け、「国際・文化科」という教科を試行している。この教科の内容については、特に設けられた稿に譲ることにしたいが、現実的にやっていることとしては、「情報の収集および整理、それを用いてのプレゼンテーションや議論」というところである。日本人は一般的に議論べたと言われている。他人から意見を言われた場合、少々意に沿わないことがあってもニコニコ曖昧に笑いながら受け入れ（るかのような）態度を見せる。同意しているなら、と相手は要求をエスカレートさせてくる。それに対しても、相変わらず曖昧な態度を取り続ける。しかし、心の中では「困ったことになったなあ」という思いは強くなる一方。こうなると結末は二つしか無くなる。破れかぶれの玉砕精神で交渉を全て引っ繰り返して対立を深める「太平洋戦争突入型」か、決定後になってグチャグチャ泣き言を並べるかのどちらかである。当事者が日本人同士の場合は、双方そういう傾向を持っていることをあらかじめお互いに承知しているので、「惻隠の情」「武士の情け」が入り込む余地があり、うまく行かないこともない。それ故、議論の場であり自分を主張することは、日本では好ましいこととされないという傾向があるようだ。それ故、議論というものの本質がわかっていない。議論と口論がごっちゃになっている日本人も多いようだ。ある問題で対立した場合、議論（口論）を続けている間に、妥協点が見つかるどころか、違いがますます先鋭化し、人間関係までぎくしゃくし始めてしまう。議論をした翌日、どんな顔で相手に挨拶したらいいのか迷う、というような経験をした人も多いのではないだろうか。だから、議論内容の対立と人間関係は全く別と割り切っている欧米人との間で議論が行なわれたら、議論そのものが成り立たなくなるのではないか。国際化が叫ばれている今日、従来より外国人相手の交渉は一層増えるに違いない。せめて、議論のイロハくらいは、きちんと身につけておく必要が、これからの社会人たる高校生には必要なのではないかと、というのが簡単に言えば、この教科の目標である。教科としては、一年が終わった段階で、ディベートができるようになれば、というのが目標である。そのための計画として、一年入学当初には、班に別れての自由討論で、まず意見を言う訓練をする。夏休みには、班に分かれて研究発表をすることになっているが、これは立論の基礎となる情報収集の練習である。この情報収集というのが、生徒に非常に良い影響を与えている。情報伝達という面では、これまでの学習というのが「与えられる」という受け身的なものだったのに対して、「集める」という積極的な方向がプラスされることにより、授業中でも、与えられるものに対して、これまでに無かった質問が出てくるなど、一步踏み込んだ姿勢が見られるようになった。いわば、国際文化科による「情報革命」である。そして、二学期には、班ごとにテーマを決め、賛成と反対の立場に分かれてディベートの練習を行なっている。これまで各クラスで、色々なテーマについて討論や調査が行なわれたが、全て生徒の自発的な情報収集・整理である。教師の手はほとんど入ってなく、方法についてのアドバイス程度である。そして、これまで生徒が選んだテーマの中に、「現代社会」に関連が深いものが多いのである。

主なものをあげてみると、「コメ問題を考える」「環境問題を考える」「日本の国際貢献を考える」「男女の役割分担を考える」「学歴社会を問う」「エネルギー問題を考える」等々。

また、二年生時の秋から冬にかけて、各人が個人論文を書くことになっているのだが、その中にも科目としての「現代社会」と密接な関連を持つ題材が多く見受けられる。今の時点でまだ論文としての体をなしていないものが多いので、出来栄を判断することは出来ないが、「国際・文化科」の導入によって、生徒達に「社会を見る目」が養われていることは確かのようにある。

## 5. 今年の「現代社会」の展開

先の中学社会とは何だったのか、の項でも述べたが、生徒達は、中学時代あまり社会科が好きではなかったようである。それでも、何とか捨てずに勉強をしてきたのは、社会科が高校受験の入試科目の中にあっただからである。生徒達が勉強する理由というのは、先にも述べたように普通は「次」の為であって、科目自体が好きだからという理由は非常に少ない。今から約30年ほど前、石川県の高校入試の科目には、国・社・数・理・英だけではなく、技術家庭・音楽・保健体育も入っていたことがある。当時、これらの実技科目が得意ではなかった私は、どうしようかと真剣に悩んでいたが、実際自分が受験する頃にはこれらの実技科目は入試科目から外されていたので、ホッとしたことを覚えている。今の中学生達にこのことを話したら、どういう反応を示すだろうか。きっと驚くだろうことは、今の高校生達に「今から25年ほど前には、大学受験は、どこの大学でも、今の二次テストにあたるものが五教科七科目で行なわれていたんだよ」という話をした時の反応から考えて、想像に難くない。受験生にとって、入試科目というのは非常に大きな関心の対象であり、入試科目に入っているかないかというのは、日頃の学習姿勢に大きな影響を与えるのである。

この観点から見ると、現代社会という科目は非常に微妙な立場にある。生徒にとって、二次テスト科目にも、そして今となってはセンター試験科目にも入っていない（一時、共通一次で必修の時期もあったが）「現代社会」は、何故やらなければならないのか、ということになるのである。「現代社会」の教科書は、既によく知られているように、非常に平易な内容である。多くの生徒にとっては、「こんな分かり切ったこと、なんで今さら」ということになるし、それでは、と難しい内容にすれば、「入試科目でもないもの、なんで張り切ってやらなん」ということになってしまうのである。この傾向は、進学校ほど顕著であり、一部の学校では、一年時「現代社会」という名目で全く他の内容の科目をやっているという話を聞いたこともある。

本校の教育課程の社会の部分には、非常に模範的になっている。

一年生時に「現代社会」 二年生時には「日本史」「世界史」「地理」から、文系二科目、理系一科目の選択 三年生時には、原則として二年生時の履修科目を継続するが、場合によっては、一科目を（つまり理系の生徒は履修科目そのものを）「倫理・政経」に変更することも可 というものである。しかし、その反面、大学入試制度をよく知っている生徒ほど、一年生時の「現代社会」に対して疑問をもつことになる。その結果が、先ほど述べたような、「現代社会の皮を被った世界史その他」ということになるのである。しかし、もう一度、なぜ「現代社会」が必修として（多くの場合は一年生時だが）置いてあるかを考えてみる必要がある。

「現代社会を見る目、判断する力を育成する」ため、ではなかったのか。もしそうなら、今の生徒にとって、絶対に必要な科目である。しかし、今の「現代社会」の教科書で、それが達成できるだろうか。そこで、「国際文化科」に一単位放出した今年、思い切って、それに徹する授業計画を組んでみた。

授業計画とは言ってみたものの、実はいきあたりばったりと言うところが現実である。四月以来の授業展開を簡単に説明してみたい。

まず、入学した生徒達に、先に述べたような「現代社会の時間に勉強したいこと」のアンケートをとる。アンケート集計をしながら、環境問題・人口問題・食糧問題・エネルギー問題をまとめたプリントを使って、現代社会が直面している問題を大まかにつかむようにする。その際、石川県でも稼働が始まった「原子力発電」について、その仕組みを簡単に説明する。

以後、学習した題材をあげていくと、「バブル経済の話」「外国為替の仕組み」「株式の話」「陪審裁判のプロセス」「選挙制度の話」「カンボジア問題」「米英の政治形態」「中東問題

の歴史」「ユーゴ情勢」「グルジア共和国問題」「コメ問題」「北方領土問題」「基本的人権の話」である。途中、六月と十月に教育実習の期間があり、その時には、教生に「財政問題」と「金融問題」をやってもらった。

「バブル経済の話」は、生徒のアンケートの中に、一番希望が多かったのだが、確かに「バブル」という言葉は聞いて知っているのだが、「バブル」の元々の英語的意味や発生の過程、崩壊の原因、そして何よりもバブル経済が国民に与えた影響が何だったか、ということについては、全くと言っていいほど、知識が欠落している。中学時代の公民の授業とは一体何だったのか、と言いたいが、考えてみれば無理もないわけで、現在の「質の多様化、希望の一元化」の中学校では、原因を授業で話してもしらけるだけだ。プラザ合意、円高、等と言ったところで授業が成り立つはずもない。いきおい、「バブル経済の原因はオイルショックです」などと、生徒のよく知っている（これも言葉だけだが）経済現象と結びつけて話すことになるのだろう。しかし、この題材を扱う中で、「外国為替の仕組み」「株価の変動」の仕組みが分かっていない、という問題が出てきた。両者ともアンケートの中にあっただけで、次はこの二つを扱うことにした。

「外国為替の仕組み」では、「外国為替でどうして外国にお金を送ることができるのか」を、国内の為替の話を経験に説明し、次に「為替はなぜ変動するか」を説明した。「送金」といえば、書留を使って現金を送るか、銀行に頼んでしまえばそれまでと思っている生徒達に、為替の概念を説明するのは、意外と骨が折れた。「水戸黄門は、どうしてあんなに長い旅を続けられたのか、お金はどうしていたのか」という話から、江戸時代にはすでに為替の仕組みが確立されていたことを話すと、生徒達は興味を持って聞いていたようであった。また、為替も品物と同じで、需要と供給の関係で価格が変わる、それが円高、円安ということにつながるのだ、という話をしたが、これは、当時円高が進行し、1\$=100円に迫ろうという時期であっただけに、生徒にはすんなり入っていったようであった。次に「円高差益」の話をしたが、この言葉については、新聞広告などで「円高差益還元セール」の文字が踊っているのだから、言葉そのものは聞いたことがあるが、内容についてはちょっと、という生徒が多かった。

「株式の話」では、生徒は「株」という存在に対しては、非常に興味を持っているようであったが、それが何か、ということに対しては全く知識は持っていないようだった。しかし、NTT株やJR東日本株等、マスコミ等で株をめぐる報道は多く、株の仕組みをある程度知らないと何のことか分からないということが多いのである。まず、授業では企業の種類をアツかった。生徒は、会社といえば株式会社を連想するようだが、合名、合資、有限の他の三種類も簡単に説明しておく必要がある。次に株式会社の実態に触れるわけだが、これが一番厄介な問題であった。というのは、教科書や参考書などでは、株式会社＝大規模な会社という前提で話が進んでいるが、実際は、「大きな会社は株式会社だが、株式会社が大きな会社ではない」ということが欠落しているのである。実際、90年の調査では、株式会社の約4割が資本金五百万円以下の小規模企業だし、一千万円以下にまで広がると6割を超えてしまうのである。そしてこれらの小規模会社が大規模会社へ成長していく過程にこそ、経済社会の実動的な動きが見えるはずなのだが、教科書にはそのあたりのことが全く触れられていない。また、現在株式市場で取引されている株によって生まれたお金が、一体何処へ行くのかということも生徒には知られていない。NTT株フィーバーの頃よく言われた、「NTT株の大幅値上がりで、さぞやお給料が上がったんでしょね、と言われて困っているNTT社員の奥さん」が、笑い話にならない所に「社会の現実につながらない学習」の問題点があると思う。その外、株価変動の要因に触れ、最後に「小規模会社が大規模会社へ成長する過程」を簡単に説明しておいた。

「陪審裁判のプロセス」では、当時話題になっていた服部くん射殺事件の裁判を材料に、アメリカと日本の裁判制度の比較を扱った。アメリカの裁判を特徴づけるものに陪審裁判があるが、近年法廷ミステリーが大流行の割には、生徒はそれらの作品を読んでいない。結構大部なものが多く、なかなか時間がないのかもしれないが、啓蒙される点も多いので、ぜひチャレンジしてもらいたいものである。裁判の所では、日本とアメリカの法律に関する考え方の違いなどが裁判の在り方に大きな影響を与えるので、授業ではぜひとも触れておきたい所である。また、近年よく話題になる、「再審」についても、三審制の中の控訴審、上告審とごっちゃにされている所もあるので、再審とはどういうことかもきちんと押えておく必要がある。日本では、裁判の当事者になる＝犯罪者というイメージが強いので、「合理的な疑いを超えて有罪とされるまで、被疑者は無罪と推定される」というルールがなかなか生徒の中に入っていない。裁判の部分は、これからも扱い方を工夫していかなければならない分野である。

「選挙制度の話」は、宮沢内閣崩壊寸前の時期に扱った。生徒は、小選挙区制、大選挙区制、比例代表制の簡単な違いは理解しているが、当時話題になっていた「小選挙区比例代表並立型」「小選挙区比例代表併用型」「小選挙区比例代表連用型」の違いに迄は理解が及んでいなかった。現在、政治改革法案は、「小選挙区比例代表並立型」で進んでいるが、果たしてこれがベストの案なのかどうかは、三つの違いがしっかり分かってこそ判断できるのではない。民主主義の為には、制度の違いを将来の有権者である生徒達にもしっかり身に付けさせておく必要があると思う。また、生徒達は漠然と「小選挙区制」に対して不信感を持っているので、民主政治の先輩であるアメリカやイギリスの国会議員の選挙が「小選挙区制」で行なわれていることを意外に感じたようだった。しかし、小選挙区制が二大政党を作るのではなく、二大政党制が小選挙区制に適しているということを押えておく必要はあるだろう。あわせて、米英の政治の仕組みに触れておいた。

「カンボジア問題」も今年度大きな話題を呼んだ。しかし、カンボジアが何故今のような混乱状態に陥ったのか、また、どういうグループが対立しているのか、ということについては生徒たちには正確な情報がない。ただ、カンボジアが大変だ、PKOに協力しなければならない、と情緒的な意見だけが盛り上がるようでは問題が残るだろう。正確な歴史認識と現状分析があってこそ「国民的合意」なのではないだろうか。この問題の扱いでは、将来への展望は出来なかったが、「今」に至る過程を扱ったことで、生徒の問題認識の役にはたったようで、評判の良かった題材であった。

「中東問題の歴史」、この問題も、問題名は明らかだが、歴史的推移がほとんど知られていないようだ。イスラエル建国の事情、それに伴う難民の発生、PLOの成立と、問題を歴史的に追っていかねば正確な判断は下せない。湾岸戦争を契機とする中東の力関係の変化などもふまえて、今回の「イスラエル・PLO暫定自治交渉」をとらえる必要がある。でないと単純な善玉、悪玉的とらえ方しか出来なくなる可能性がある。ここでは、ユダヤ教とキリスト教の違いについても述べておいた。

「ユーゴ情勢」、これも今年問題になった事件。しかし、多くの生徒の理解レベルは、ユーゴでは、何故同じ国の国民が殺し合わなくてはならないのだろう、という程度。事実上の一族一国家である日本ではこの程度の認識になるのは無理もないのかもしれない。ユーゴが複数の民族によって構成され、民族対立が今回の混乱の大本であるということを理解しておかねば、この問題に対する正確な判断も出来ないだろうし、解決の展望も生まれてこない。

「グルジア共和国問題」、この問題も一時マスコミで大きく取り上げられた。しかし、グルジアがそもそもどのあたりにあるかを知らない生徒がほとんどであった。しかし、この問題は、

旧ソ連およびロシアのグルジアに対する態度、またグルジア共和国のアブハジア自治州に対する態度を対比して、「自治」ということを考えさせる良い材料になったような気がする。

「コメ問題」、これは93年末現在、マスコミでの論議が続いている。これについては、色々な意見が色々なメディアを通じて流され、生徒の耳にも入っている。しかし、論理的意見、情緒的意見、今年の問題に関する意見、過去の問題に関する意見、将来の問題に関する意見、経済的意見、政治的意見と種々雑多なものが入り乱れている。これらの交通整理をする必要がある。いかに私見を交える事無く交通整理が出来たかを考えてみるといささか心許ないが、タイムリーな問題だけに、しっかり生徒には情報を伝えておく必要があると思う。

「北方領土問題」、これはエリツィン大統領の来日を機会に扱った。「北方領土」は、名前だけは有名だが、一体どういう島々があるのか、またどういう歴史的経緯でソ連・ロシアが占拠するに至ったのか、日本側が「我国固有の領土」と主張する論拠は何か、ロシア側が、返還に応じない論拠は何か、ということがあまり明らかにされていない。まず、その基礎知識を身につけて、問題解決の方法を彼らなりに考えさせようという目標で授業を展開してみた。「北方領土」というと、まず、返してもらいたい、という意見が多い中、別に返してもらいたいことない、返してもらっても、日本国内が混乱するだけという意見も少なからず存在する。そういう意見も紹介して、領土問題を冷静に見るように努めたつもりである。

最後は、まだ関連の授業が続いている「基本的人権問題」、直接のきっかけは、例の椿発言に端を発する表現の自由問題である。しかし、まだ、憲法学習を全くやってなかったのも、この機会にと、基本的人権をまとめて行なうことにした。途中、「本当のことを言っても名誉毀損」や「刑事ドラマと逮捕の実際」「職業選択の自由とブルセラシヨップ」「死体無き誘拐殺人事件」等、生徒達の注意を惹くような題材を心がけたつもりだが、どうしても生活との接点がとりにくく、また、題材が長いこともあって、少々ダレてしまったようだ。

先日亡くなった田中角栄元首相に関する話しもしてみたが、生徒達が生まれる以前が主な活躍時期だったこともあり、余りいい反応は得られなかった。ロッキード事件なども、現在のゼネコン疑惑に比べると、金額も少なく（当時としては多かったが）インパクトが少ないようだ。しかし、生徒達は政治腐敗に対してはかなり興味を持っているふうなので、来年は、戦後の疑獄史を扱ってみようかと思っている。

以上、今年扱った教材を振り返ってみたが、何の脈絡もなく、ただ、その当時話題になったものに題材を求めている。これでは、前回の紀要で、「現代社会」が抱え込んだ問題点として私自身が批判した、「広く浅い話題学習」そのものではないか。確かに、深さの点では、その時その時に扱うべき関連事項に関しては、通常の授業程度の内容は盛り込んだつもりだが、何の脈絡もない、と言う点では、全くその通りである。しかし、よく考えてみると、「現代社会」という教科が、教材編成に脈絡を持つ必要があるのだろうか。無理に脈絡を持たせようとするから、教材が実社会から遊離してしまい、生徒の学意欲を失わせてしまっているのではないか。現実社会の出来事は、教科書の目次通りには起こってくれない。現実の社会を題材に料理をしながら、「現実を見る目、判断する力」を養っていけばいいのではないだろうか。確かに体系的な知識を身につけると言う点では、少々心許ない。しかし、「知識を身につけることにこだわらない」「網羅的に扱わないよう注意する」というのは、「現代社会」の精神そのものだし、受験に対応するための知識習得に関しては、三年時に選択する「倫理・政経」で十分対応できるはずである。とにかく、時事問題を題材にやってきた今年は、生徒の反応も、かなり良いような気がする。また、生徒達からも、「これについてやって欲しい」という注文も、少しではあるが来るようになり、授業の確かな手応えを感じるようになっていく。

ただ、欠点といえば、教材編成に時間がかかることだ。新聞等からネタを仕入ながら、ほとんど自転車操業でやらなければならない。また、ニュースの内容は時々刻々と変化しているので、そのアフターケアも欠かせない。「グルジア共和国問題」でも、授業をやった時には、「グルジア共和国」と「ロシア」は対立をしていたのだが、のちに「グルジア」が「独立国家共同体」への参加を表明したことにより、両者の関係が改善されたということがあったし、「中東問題」でも、PLOとイスラエルの暫定自治交渉が土壇場にきてまとまらないなどということも授業で触れなければならない。しかし復習にちょうどいいというプラス面も期待できるのである。

もっとも、「バブル」や「株」「外国為替」などは、定番的なプリントであり、これから小さな改良を進めながら、長く使っていけるのではないかと思っている。ただ、やはりニュースは旬のものが一番美味しいのであって、来年以降も自転車操業は続きそうである。

#### 終わりに

先ほど、中学校の社会科に関することを少し書いたが、最後にもう一つ中学校の社会科について、考えていることを書きたいと思う。現在中学校では、地理、歴史、公民の三分野をやっているが、果たして、これが今の中学生達にとって、魅力あるものになっているのだろうか。こう書くと「お前の社会は高校生達にとって魅力あるものなのか」、と問われそうだが、我が身の不徳は顧みないことにして述べたい。私は、個々の授業のやり方を述べているのではない。この三分野の内容をやらなければならないのか、ということを知りたいのだ。生徒達は、地理には旅行記的面白さを、歴史には物語的感動を、公民にはハウツーもの実用性を求めている。それなら、いっそのこと、その要求に対応してやればいいのか、ということである。この三分野は、高校での学習とかなり重なる部分がある。味気ない、体系的、網羅的学習は、それが必要な高校生連中に任せることにして、楽しい学習内容を考えるべきではないか。旅行記ビデオを見るのもいいだろう、太平記、平家物語を読むのもいいだろう。市役所や裁判所を見学するのもいいだろう。知識の習得量を気にしないですむ学習をどんどん中学校で導入すべきではないだろうか。もちろん、そうなると高校入試改革が必要である。中学校の授業内容を変えて、入試制度をいじらなかつたら、生徒は、学校以外の所で入試準備をするのは目に見えている。つまり、入試は、中学校でやっている内容に対応すべきであって、それ以外の要素は極力盛り込むべきではない、ということである。今、ボランティア活動の評価、やる気、意欲の点数化などが工夫されているが、こういうものが本来点数化されるべきものなのだろうか。すでに、中学校では、これまでなり手がいなかった生徒会役員に、生徒会活動で良い点をもらおうと、立候補者がたくさん出ているという話を聞いている。ボランティアなどは、人知れずやってこそボランティアである。右を見ても左を見ても、他人受けを狙った良い子ばかりでは、やりきれないではないか。今とは別の点取り主義がはびこることになるのではないかと危惧するのは、私だけではあるまい。やはり、入試は、テストによる一回勝負がいいのではないかと思う。入学以来の行動をすべて内申書に記録して比較検討する、ということになると、三年間気が抜けないことになる。また、落ちた生徒にしてみれば、人格も合わせて否定されたような気になるのではないだろうか。先に、入試はテストによる一回勝負と書いたが、このテストを改善することが、まず急務である。従来のように、知識の習得量だけを問う問題ではなく、社会認識の度合いや、日々の情報収集力を問う問題を工夫すべきだろう。実は、この問題作りが大変なのだということは分かっているのだが、避けて通ることができない問題だろうと思っている。



12月20日の読売新聞の社説に「高校改革に一層の努力を望む」という一文があり、その中に「高校改革の決め手となるのは、高校そのものの構造を柔らかいものにし、かつ個性的にしていくことだろう」という一文があり、その後、単位制総合学科や、高校間での単位取得の連携などを紹介し、評価していた。しかし、就職のために大学へ行き、大学のために高校へ行き、高校のために中学へ行くという、現在の社会のピラミッド構造を変えない限り、問題は解決しない。社会構造が変わらない限り、大学へ行こうとする人数は一定量存在するわけだし、この人達にとっては、「居心地の良い高校」など「居心地が良い」故に行きたくないわけだし、公立の高校が全て「居心地のよさ」を売り物にするようになれば、「私立」志望がふえるだけである。

話が、かなり横道に逸れてしまった気がするが、とにかく「努力というものは“次”のためにされる」もののようである。ということは、中学校でどのような努力がされるかは、高校入試の在り方に左右されることのようにだ。我々高校としても、中学生が楽しく学習でき、知識習得競争に終わらないような入試の在り方を考えていく必要があるだろう。と同時に、大学入試や就職試験の在り方を変えること無く、高校教育が変わらないことも、社会に対して強くアピールしていく必要があるだろう。今回の平成不況で、またまた企業による、大学選別採用が始まったという話を聞く。このような風潮が改まらないかぎり、全ての生徒が入試を気にすること無く学べる高校は生まれないだろう。

# 第1回

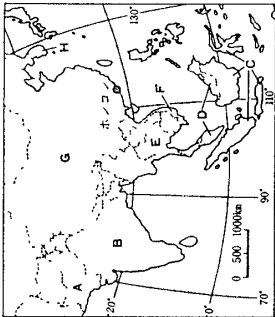
## 入試直前模擬テスト

時間40分

▶解答・自国の手引き戸印

### 1 地図をみて各問に答えなさい。(静岡改)

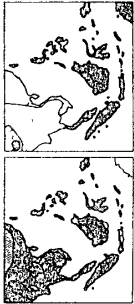
- 次の①・②の文にあてはまる国を地図中のA～Hから1つずつ選び、記号と国名を答えよ。  
① この国では農業がさかんである。ガンジス川の中・下流域やデカン高原の北部などでは小麦が栽培され、米や小麦の生産量は世界有数である。しかし、多くの人口をかかえているため、食料問題が深刻になっている。  
② この国は、ユーラシア大陸から突き出た半島に位置している。この国の1haあたりの米の収穫量は世界最高水準にある。また近年、重化学工業の発達が著しく、特に造船業が成長している。



東南アジアの降水量



5月～10月までの降水量



11月～4月までの降水量

水量を比較した場合、E国における市の降り方には、C国やD国における市の降り方と比べてどのような特徴がみられるか。その特徴を簡潔に書け。また、E国における市の降り方にそのような特徴が生じる理由を、風の吹き方と関連づけて、簡潔に書け。

(3) グラフは、日本とC国、H国との貿易について、輸出入額の品目別割合を示している。グラフ中のa・b・cを正しく組み合わせたものを、次から1つ選び、記号で答えよ。

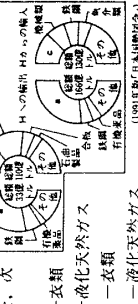
A a—船舶 b—原油 c—衣類

I a—船舶 b—石炭 c—液化天然ガス

ウ a—機械類 b—原油 c—衣類

エ a—機械類 b—石炭 c—液化天然ガス

(1991年(日本は輸出側))



(1991年(日本は輸出側))

年表をみて各問に答えなさい。(山形改)

(1) 資料Iは、年表中のア～オのうち、どの時期のものか。1つ選び、記号で答えよ。

(2) 年表中のAのころの文化について述べたものを、次から1つ選び、記号で答えよ。

A 寄式節が「簡式物語」を書いた。

I 吉由兼好が「徒然草」を書いた。

ウ 紀貫之らが「古今和歌集」をつくった。

エ 藤原定家らが「新古今和歌集」をつくった。

(1991年(日本は輸出側))

年表をみて各問に答えなさい。(山形改)

(1) 資料Iは、年表中のア～オのうち、どの時期のものか。1つ選び、記号で答えよ。

(2) 年表中のAのころの文化について述べたものを、次から1つ選び、記号で答えよ。

A 寄式節が「簡式物語」を書いた。

I 吉由兼好が「徒然草」を書いた。

ウ 紀貫之らが「古今和歌集」をつくった。

エ 藤原定家らが「新古今和歌集」をつくった。

(1991年(日本は輸出側))

年表をみて各問に答えなさい。(山形改)

(1) 資料Iは、年表中のア～オのうち、どの時期のものか。1つ選び、記号で答えよ。

(2) 年表中のAのころの文化について述べたものを、次から1つ選び、記号で答えよ。

A 寄式節が「簡式物語」を書いた。

I 吉由兼好が「徒然草」を書いた。

ウ 紀貫之らが「古今和歌集」をつくった。

エ 藤原定家らが「新古今和歌集」をつくった。

(3) 年表中のBのことから最も関係あるものを、次のI群・II群から1つずつ選び、記号で答えよ。

I 群

A ヨーロッパ諸国はキリスト教の布教などのためにアジアに進出した。

I イスラム帝国と唐が繁栄し、東アジアで活発な交流が行われた。

ウ 産業革命後、欧米諸国は原料と市場を求めてアジアに進出した。

エ 強大なモンゴル帝国が成立し、周辺諸国へ侵入をはかった。

II 群

A 御家人は戦いの負担に加え恩賞がなかったことに不満をいだいた。

I 幕府はアヘン戦争のような事態を恐れ、開国にふみきった。

ウ 大陸の制度や文化が導入され、平城京に天平文化がさかえた。

エ 戦いの仕方が変わり、全国統一に大きな影響をあたえた。

(4) 年表中のCの戦争のち結ばれた条約で日本が得たりヤオトン半島を占に返すように求めてきた3つの国を正しく組み合わせたものを、次から1つ選び、記号で答えよ。

A ドイツ、イタリヤ、ロシア

I イギリス、イタリヤ、フランス

ウ ドイツ、フランス、ロシア

E イギリス、オランダ、ドイツ

(5) 資料IIは、年表中のDのころのグラフである。資料IIをみて、次の①②の問に答えなさい。

① aからbに変化したのは、何という改革によるものか。

② その改革が行われた目的を書け。

(6) 年表中のEと同じ年のできごとを、次から1つ選び、記号で答えよ。

A 日本の国連加盟

I 朝鮮戦争

ウ ベトナム戦争

E サンフランシスコ平和条約

(山形改)

I 日本国憲法は、立法権を持つa国会、行政権を持つb内閣、司法権を持つ裁判所が独立しながらも

たがいに抑制と均衡を保って政治を行う[A]のしくみをとっている。

II わが国では、正当に選挙された国民の代表者を通じて政治を行う[B]という制度をとっている。

選挙の方法、c選挙区、選挙運動、選挙管理機関などについては、公職選挙法に定められている。

(1) 文中の[A]・[B]にそれぞれあてはまる語句を書け。

(2) 下線部aについて正しく述べたものを、次から1つ選び、記号で答えよ。

A 公職選挙法は本会議で開かれる。

I 参議院の方が議員数は多い。

ウ 予算は衆議院に先議権がある。

E 常会は年2回開かれる。

(3) 下線部bに対する不信決議が解されたとき、10日以内に衆議院が解散されなければ、内閣はどうしななければならないか。

(4) 下線部cに関して、表は、選挙区制の種類とその特色をまとめたものである。表をみて、次の①・②の問に答えなさい。

① 表中のAにあてはまる語句は何か。

② 表中のa～cにあてはまる特色を、次から1つずつ選び、記号で答えよ。

A 過半数の得票を得た政党が議席を独占する。

I 得票数に応じて各政党が議席を得る。

ウ 1選挙区で1人が議席を得る。

E 1選挙区で2人以上が議席を得る。

(山形改)

I 参議院の方が議員数は多い。

ウ 予算は衆議院に先議権がある。

E 常会は年2回開かれる。

(3) 下線部bに対する不信決議が解されたとき、10日以内に衆議院が解散されなければ、内閣はどうしななければならないか。

(4) 下線部cに関して、表は、選挙区制の種類とその特色をまとめたものである。表をみて、次の①・②の問に答えなさい。

① 表中のAにあてはまる語句は何か。

② 表中のa～cにあてはまる特色を、次から1つずつ選び、記号で答えよ。

A 過半数の得票を得た政党が議席を独占する。

I 得票数に応じて各政党が議席を得る。

ウ 1選挙区で1人が議席を得る。

E 1選挙区で2人以上が議席を得る。

(山形改)

I 参議院の方が議員数は多い。

ウ 予算は衆議院に先議権がある。

E 常会は年2回開かれる。

(3) 下線部bに対する不信決議が解されたとき、10日以内に衆議院が解散されなければ、内閣はどうしななければならないか。

(4) 下線部cに関して、表は、選挙区制の種類とその特色をまとめたものである。表をみて、次の①・②の問に答えなさい。

① 表中のAにあてはまる語句は何か。

② 表中のa～cにあてはまる特色を、次から1つずつ選び、記号で答えよ。

A 過半数の得票を得た政党が議席を独占する。

I 得票数に応じて各政党が議席を得る。

ウ 1選挙区で1人が議席を得る。

E 1選挙区で2人以上が議席を得る。

(5×8)

(1) エ

(2) エ

(3) ア

(4) エ

(5) ① 衆地改革

(6) ② 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(7) ③ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(8) ④ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(9) ⑤ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(10) ⑥ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(11) ⑦ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(12) ⑧ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(13) ⑨ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(14) ⑩ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(15) ⑪ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(16) ⑫ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(17) ⑬ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(18) ⑭ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(19) ⑮ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(20) ⑯ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(21) ⑰ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(22) ⑱ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(23) ⑲ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(24) ⑳ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(25) ㉑ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(26) ㉒ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(27) ㉓ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(28) ㉔ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(29) ㉕ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(30) ㉖ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(31) ㉗ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(32) ㉘ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(33) ㉙ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(34) ㉚ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(35) ㉛ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(36) ㉜ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(37) ㉝ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(38) ㉞ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(39) ㉟ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(40) ㊱ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(41) ㊲ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(42) ㊳ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(43) ㊴ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(44) ㊵ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(45) ㊶ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(46) ㊷ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(47) ㊸ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(48) ㊹ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(49) ㊺ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(50) ㊻ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(51) ㊼ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(52) ㊽ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(53) ㊾ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(54) ㊿ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(55) ㊿ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(56) ㊿ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(57) ㊿ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(58) ㊿ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(59) ㊿ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(60) ㊿ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(61) ㊿ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(62) ㊿ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

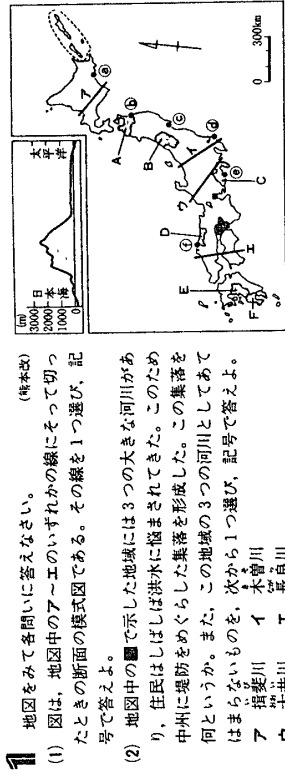
(63) ㊿ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(64) ㊿ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(65) ㊿ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

(66) ㊿ 農村を民主化し、農民の生活を向上させる

# 第2回 入試直前模擬テスト



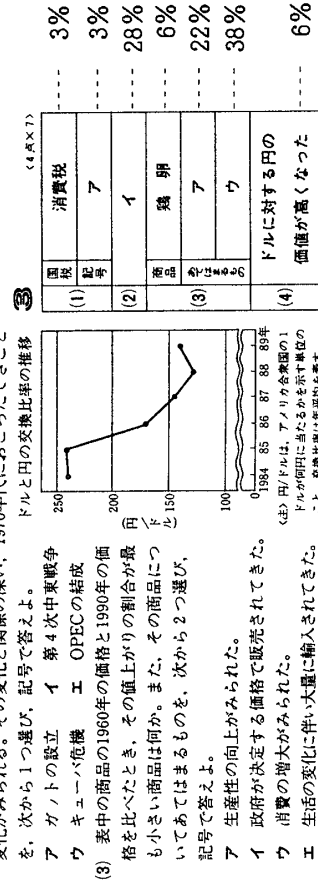
- 図をみて各問いに答えなさい。  
(1) 図は、地図中のア～エのいずれかの線にそって切ったときの断面の様式図である。その線を1つ選び、記号で答えよ。
- 地図中の①で示した地域には3つの大きな河川があり、住民はしばしば洪水に悩まされてきた。このため中州に堤防をめぐらした集落を形成した。この集落を何というか。また、この地域の3つの河川としてあてはまらないものを、次から1つ選び、記号で答えよ。  
ア 根室川 イ 木曽川  
ウ 大井川 エ 長良川
- 地図中の②で示した島々はわが国の北方領土である。この北方領土にくまなく島々を、次から1つ選び、記号で答えよ。  
ア 利尻島 イ 国後島 ウ 色丹島 エ 択捉島
- 地図中の③で示したA～Fの県は、次のア～カの農畜産物のうち、いずれかの生産量が全国第1位(1989年)である。A、Fの県の全国第1位の農畜産物にあてはまるものを1つずつ選び、記号で答えよ。  
ア い草 イ 豚肉 ウ りんご  
エ なし オ 茶 カ おとうとう(さくらんぼ)
- 地図中の④で示した⑤～⑧の都市に共通している特色を、次から1つ選び、記号で答えよ。  
ア 精密機械工業がさかんである。 イ 水揚げ量の多い漁港がある。  
ウ 石油化学工業がさかんである。 エ 原子力発電所がある。
- 地図中の⑨で示した水域では、工場廃水や家庭排水などが原因で赤潮とよばれる現象が発生することがある。この赤潮は、何が異常に増えて海水が変色してみえるものか。

- 次の文を読み、また、年表をみて各問いに答えなさい。  
A 班田収買の法で、口分田をあたえられた農民は、租・調・庸の税のほか、労役やa兵役の義務が課せられ、重い負担に苦しんだ。  
B b全国の統一が成しとげられた16世紀末には、下剋上の動きがおさえられられるとともに、兵農分離も進み、封建社会を支配するしくみが固まった。  
(1) 下線部aに関しては、兵役のうち、北九州の防備にあたった者を何というか。  
(2) 下線部bに関して、1590年に豊臣秀吉が全国を統一した時にはろはされた戦国大名を、次から1つ選び、記号で答えよ。  
ア 武田氏 イ 今川氏 ウ 上杉氏 エ 北条氏



- 年表中のcのころの社会のようすとてあてはまるものを、次から1つ選び、記号で答えよ。  
ア 草木吹や牛馬を使った耕作に加え、近畿、西日本では二毛作が始まった。  
イ 東廻り紙路や西廻り紙路が整備され、大量の物資が船で運ばれた。  
ウ 年貢の軽減や借金帳消しを求めて、土一揆がたびたびおこった。  
エ 北関東の絹織物業などでは、作業場で行われた。
- 年表中のdのころ、わが国に便節をおくりに通商を求めてきた国はどこになった。dのころ、わが国に便節をおくりに通商を求めてきた国はどこか。
- 年表中のeをききかけに、藩閥政治に反対し、議会政治の実現をめざす運動がおこった。この運動を何というか。
- 年表中のXの時期に明治政府は、外交上の大きな課題であった不平等条約の改正を達成した。こうして、わが国は、国際社会において欧米諸国と対等な立場に立つことができた。このとき改正されたことがらを、15字以内で書け。
- 年表中のfにおいて、シャントン(山東)半島のドイツ権益を日本に引きわたすことが決まると、中国では日本に対する抗議運動がおこった。この運動を何というか。

- 表をみて各問いに答えなさい。  
(1) はがき(1通)の郵便料金は、1989年に、間接税である新しい国税の実施に伴い、1円値上がりし41円となった。この新しい国税は何か。また、この新しい国税と同様に、間接税にふくまれるものを、次から1つ選び、記号で答えよ。  
ア 酒税 イ 所得税  
ウ 相続税 エ 法人税
- 1970年の小売価格と1980年の小売価格の間には、大きな変化がみられる。その変化と関係の深い、1970年代におこったできごとを、次から1つ選び、記号で答えよ。  
ア ガソリンの設立 イ 第4次中東戦争  
ウ キューバ危機 エ OPECの結成
- 表中の商品の1960年の価格と1990年の価格を比べてみると、その値上り率が割合が最も小さい商品は何か。また、その商品についてあてはまるものを、次から2つ選び、記号で答えよ。  
ア 生産性の向上がみられた。  
イ 政府が決定する価格で販売されてきた。  
ウ 消費の増大がみられた。  
エ 生活の変化に伴い大量に輸入されてきた。



- 灯油の価格は、1980年には1,500円をこえていたが、1990年には1,000円以下になった。この時安くなったのは、産油国における原油の販売価格が下落したことのほかにもう1つ原因がある。その原因を、グラフを参考にして、「円」、「ドル」、「価値」の3つの語句を使って書け。

# 第3回 入試直前模擬テスト

時間40分  
解答・自費の手引きP.13

1 地図をみて各問に答えなさい。

(1) 地図Ⅰ中に「X」で示した地域は、高山が連なり、火山も多い造山帯(山系)である。この造山帯(山系)を何というか。

(2) 地図Ⅰ中のPで示した地域について述べた次の文の□にあてはまる語句は何か。

この地域では、□によって樹木が枯れるなどの害が出しており、水中生物などへの影響も深刻化している。

(3) 地図Ⅰ中のQは、ある鉱産資源について、おもな国の1989年における生産量の分布を示している。この鉱産資源は何か。また、地図中のQは、中国におけるこの鉱産資源の大産地を示している。この産地を何というか。地図Ⅱ

2 次の文を読み各問に答えなさい。

A a 8世紀には、平城京を中心に、唐の文化の影響や仏教との結びつきの強い文化がさかえた。東大寺の正倉院宝庫には、b 聖武天皇の愛用品をはじめとするとc 国際色豊かな品々が多く収められており、当時のはややかな文化がはげしくみられる。

B 15世紀後半、d 京都を中心に11年間も続いた戦乱が収まったのち、足利義満は京都の東山に、e 銀閣を建て、風流な生活を送った。この銀閣に代表される当時の文化には、禅宗の影響がさまざまな形で現れ、簡素で気品のある作品が多くみられる。

C 18世紀中ごろから、文化の中心は上方から江戸に移り町人を中心とする文化がさかえた。学問の分野では、f 蘭学のほかに新たに国学や蘭学がおこり、封建社会が行きづまりをみせるなかで、g 幕府の政治を批判する者も現れた。

(1) 下線部aに関して、8世紀の最初と最後の年を表しているものを、次から1つ選び、記号で答えよ。

A 700年と799年 I 701年と800年 U 800年と899年 E 801年と900年

3 次の文を読み各問に答えなさい。

A 君は、憲法第14条でいっている「A」の下での平等」の実現については、まだ不十分だと思っています。さきほどは、自分の住んでいてb 地域の政治や環境問題に関心を持ちたいと思っています。Bさん・私は、自分の住んでいてc 地域の政治や環境問題に関心を持ちたいと思っています。Cさん・私は、憲法第15条にあるように、自由や権利を「常に」Dのためにこれを利用する責任を負ふ」という精神や、国民の果たすべきe 義務についても大切に考えたいと思っています。D君は、よくは、将来、身体に障害を持つ人やd お年寄りに対するボランティア活動、またはe「国連NGO」のような民間の国際組織の活動をしてみたいと思います。

GO! 文の各問に答えなさい。

(1) 会話文中の「A」・「B」にそれぞれあてはまる語句を書け。

(2) 下線部aに関して、資料Ⅰの文中、資料Ⅱ 同和対策審議会答申の一部の「C」・「D」にそれぞれあてはまる語句を、次から1つずつ選び、記号で答えよ。

ウ 結婚 E 職業  
ア 学問 I 身体  
ウ 結婚 E 職業

(3) 下線部bに関する住民の権利を、次から1つ選び、記号で答えよ。

ア 国民投票権 I 国民審判権  
ウ 違憲立法審査権  
E 解職請求権

(4) 下線部cに関して、憲法で定める国民の義務は、「納税の義務」「勤労の義務」とあと1つは何か。

(5) 下線部dに関して、資料Ⅱをみて、読み取れることを、老人人口(65歳以上)に着目して簡潔に書け。

(6) 下線部eに関して、「国連NGO」のような民間の国際組織の1つに、アムネスティ・インターナショナルがある。このアムネスティ・インターナショナルの活動内容を書け。

2 下線部bの天皇の時代のできごととしてあてはまるものを、次から1つ選び、記号で答えよ。

A 冠位十二階が定められ、能力のある者役人に取り立てようとした。

I 草田永平私闘法が定められ、新しく開墾した田は私有が認められた。

ウ 朝鮮半島に出兵し、唐と新羅の連合軍と戦ったが白村江で敗れた。

E 坂上田村麻呂を征夷大将軍とする軍が、東北地方の蝦夷を平定した。

(3) 下線部cの中には、マケドニアの王アレクサンダーの遠征により、ギリシアとオリエンタルの文化がとけあって生まれた新しい文化の影響を受けたものもある。この新しい文化を何というか。

(4) 下線部dにあてはまる乱を、次から1つ選び、記号で答えよ。

A 東久の乱 I 応仁の乱 U 壬申の乱 E 保元平治の乱

(5) 下線部eに関しては、神宗寺の書斎から発見し、現在の和風住宅のものになった建築様式がとり入れられている。この建築様式を何というか。

(6) 下線部fに関して、儒学のうち、特に身分の秩序をたいせつにし、幕府から重んじられた学問を何というか。

3 次の文を読み各問に答えなさい。

A 君は、憲法第14条でいっている「A」の下での平等」の実現については、まだ不十分だと思っています。さきほどは、自分の住んでいてb 地域の政治や環境問題に関心を持ちたいと思っています。Bさん・私は、自分の住んでいてc 地域の政治や環境問題に関心を持ちたいと思っています。Cさん・私は、憲法第15条にあるように、自由や権利を「常に」Dのためにこれを利用する責任を負ふ」という精神や、国民の果たすべきe 義務についても大切に考えたいと思っています。D君は、よくは、将来、身体に障害を持つ人やd お年寄りに対するボランティア活動、またはe「国連NGO」のような民間の国際組織の活動をしてみたいと思います。

GO! 文の各問に答えなさい。

(1) 会話文中の「A」・「B」にそれぞれあてはまる語句を書け。

(2) 下線部aに関して、資料Ⅰの文中、資料Ⅱ 同和対策審議会答申の一部の「C」・「D」にそれぞれあてはまる語句を、次から1つずつ選び、記号で答えよ。

ウ 結婚 E 職業  
ア 学問 I 身体  
ウ 結婚 E 職業

(3) 下線部bに関する住民の権利を、次から1つ選び、記号で答えよ。

ア 国民投票権 I 国民審判権  
ウ 違憲立法審査権  
E 解職請求権

(4) 下線部cに関して、憲法で定める国民の義務は、「納税の義務」「勤労の義務」とあと1つは何か。

(5) 下線部dに関して、資料Ⅱをみて、読み取れることを、老人人口(65歳以上)に着目して簡潔に書け。

(6) 下線部eに関して、「国連NGO」のような民間の国際組織の1つに、アムネスティ・インターナショナルがある。このアムネスティ・インターナショナルの活動内容を書け。

4 次の文を読み各問に答えなさい。

A 8世紀には、平城京を中心に、唐の文化の影響や仏教との結びつきの強い文化がさかえた。東大寺の正倉院宝庫には、b 聖武天皇の愛用品をはじめとするとc 国際色豊かな品々が多く収められており、当時のはややかな文化がはげしくみられる。

B 15世紀後半、d 京都を中心に11年間も続いた戦乱が収まったのち、足利義満は京都の東山に、e 銀閣を建て、風流な生活を送った。この銀閣に代表される当時の文化には、禅宗の影響がさまざまな形で現れ、簡素で気品のある作品が多くみられる。

C 18世紀中ごろから、文化の中心は上方から江戸に移り町人を中心とする文化がさかえた。学問の分野では、f 蘭学のほかに新たに国学や蘭学がおこり、封建社会が行きづまりをみせるなかで、g 幕府の政治を批判する者も現れた。

(1) 下線部aに関して、8世紀の最初と最後の年を表しているものを、次から1つ選び、記号で答えよ。

A 700年と799年 I 701年と800年 U 800年と899年 E 801年と900年

# 総合 入試直前模擬テスト 時間50分 100 ▶解答・自題の手引きP.84

- 11 次の文を読み各問いに答えなさい。
- A 「エジプトは        のたまもの」といわれるように、この川の流域には、農業がさかえ、文明がおこった。この川にアスワンハイダムを建設する際には、a 国際連合の専門機関の提唱により、各国が協力して古代文明の貴重な遺跡の保存に努めた。
- B ナグリス川とユーフラテス川流域には、紀元前3000年ごろに国々がつくられ、独特の形をした文字や七曜制などを用いるメソポタミア文明がおこった。この2つの大河が合流して注ぐb ペルシア湾の沿岸諸国の大部分は、世界でも有数の産油国となっている。
- C 南アジアの二大河川の1つであるインダス川流域は、モヘンジョ・ダロなど古代都市文明の発生地として知られる。また、もう1つの大河ガンジス川はc インドの大部分の人々が信仰する宗教と深いかわりを持ち「聖なる川」とされている。
- D 黄河流域には、早くから漢民族が住みついて、黄河文明を生みだした。紀元前1500年ごろにおこった殷という国では、すぐれた青銅器やd 漢字のもとになった文字が使用されていたことが、その都のあとの発掘から知られている。

1

(1) 文中の        にあてはまる語句を書け。

(2) 下線部aに関して、国際連合の専門機関の1つで、学術活動の支援や各国の相互理解を促進する活動を行っている機関を、次から1つ選び、記号で答えよ。

ア ILO    イ UNICEF    ウ WHO    エ UNESCO

(3) 下線部bに関して、グラフのAにはペルシア湾岸の国が、Bには        があてはまる。Aにあてはまる国はどこか。

(4) 下線部cにあてはまる宗教は何か。

(5) 下線部dに関して、図は、漢字のもとになった文字である。これらの文字は、亀の甲や動物の骨に刻まれていた。この文字を何というか。

(6) A～Dの文に述べられている世界の四大文明がおこったころ、日本では、人々がまだ採集や狩りや漁を中心とする生活を営んでいた。そのころの日本の文化を何というか。

2

地図やグラフをみて各問いに答えなさい。

(1) 地図中の●は、古くから伝わる技術を生かした、ある伝統工業品が生産されているところである。これらの地域に共通する伝統工業品を、次から1つ選び、記号で答えよ。

ア 陶磁器    イ 漆器    ウ 織物    エ 和紙

(2) グラフは、地図中のA～D県の工業のようすを示したものである。このうちA県にあてはまるものを1つ選び、記号とA県の県名を答えよ。

産業別工場出荷額の割合 (1988年)

産業別	ア	イ	ウ	エ
化学工業製品	22.9%	38.9%	12.2%	12.2%
金属製品	17.4%	10.0%	10.6%	10.6%
電気機械	17.4%	10.0%	10.6%	10.6%
輸送用機械	38.9%	10.0%	10.6%	10.6%
化学工業製品	22.9%	38.9%	12.2%	12.2%
金属製品	17.4%	10.0%	10.6%	10.6%
電気機械	17.4%	10.0%	10.6%	10.6%
輸送用機械	38.9%	10.0%	10.6%	10.6%

産業別工場出荷額の割合 (1988年)

産業別	ア	イ	ウ	エ
化学工業製品	22.9%	38.9%	12.2%	12.2%
金属製品	17.4%	10.0%	10.6%	10.6%
電気機械	17.4%	10.0%	10.6%	10.6%
輸送用機械	38.9%	10.0%	10.6%	10.6%

(3) 気候グラフは、地図中のa～cのいずれかの都市のものである。このうち、a        の都市のものを1つ選び、記号で答えよ。

(4) 地図中の        にあてはまる語句を書け。

(5) 文中の        にあてはまる語句を書け。

(6) 下線部aに関して、源頼朝が幕府を開いた場所を、地図中のA～Eから1つ選び、記号で答えよ。

(7) 下線部bにあてはまることごとを、次から1つ選び、記号で答えよ。

3

次の文を読み各問いに答えなさい。

A 平氏は        を置き、これらの職に御家人を任命して武家政治の基礎をたたえた。

B b 大正 律令が制定され、朝廷中心の政治のしくみがととのって、奈良の地に新しく平城京がつくられ、この都を中心に、はなやかな文化がおこった。

C c 鎌倉 幕府がおこった翌年、海軍の青年将校らが首相大義経を暗殺するという五・一五事件がおこり、これ以後、軍人や官邸出身者が組織する内閣がつくられるようになった。

D 幕府は、大名を1年おきに江戸と領国(領地)に住まわせる参勤交代の制度を定めるなどの大名統制を行い、また、d 農民 には盛安の御触書などを出して日常生活まで細かく規制した。

(1) 文中の        にあてはまる語句を書け。

(2) 下線部aに関して、源頼朝が幕府を開いた場所を、地図中のA～Eから1つ選び、記号で答えよ。

(3) 下線部bにあてはまることごとを、次から1つ選び、記号で答えよ。

4

次の文を読み各問いに答えなさい。

A 平氏は        を置き、これらの職に御家人を任命して武家政治の基礎をたたえた。

B b 大正 律令が制定され、朝廷中心の政治のしくみがととのって、奈良の地に新しく平城京がつくられ、この都を中心に、はなやかな文化がおこった。

C c 鎌倉 幕府がおこった翌年、海軍の青年将校らが首相大義経を暗殺するという五・一五事件がおこり、これ以後、軍人や官邸出身者が組織する内閣がつくられるようになった。

D 幕府は、大名を1年おきに江戸と領国(領地)に住まわせる参勤交代の制度を定めるなどの大名統制を行い、また、d 農民 には盛安の御触書などを出して日常生活まで細かく規制した。

(1) 文中の        にあてはまる語句を書け。

(2) 下線部aに関して、源頼朝が幕府を開いた場所を、地図中のA～Eから1つ選び、記号で答えよ。

(3) 下線部bにあてはまることごとを、次から1つ選び、記号で答えよ。

ア 中央には2官8省などの役所を置いた。

イ 関白が天皇にかわって政治を行った。

ウ 新たに冠位十二階の制度を定めた。

エ 上皇の御所である院が政治の中心となった。

(4) 下線部cから第二次世界大戦終了までにおこった次のア～エのできごとを、年代の古いものから順に並べ、記号で答えよ。

ア 日独伊三国同盟が結ばれた。イ 太平洋戦争が始まった。

ウ 日本が国際連盟を脱退した。エ 国家総動員法が定められた。

(5) 下線部dの状況ア イ ウ エ

にあっても農民は

農業の発達に努め、

しだいに技術も進

歩していった。江

戸時代に使われはじめ、農作業の能率を高めた農具を、図のア～エから1つ選び、記号で答えよ。

(6) 次の①・②の文の時期に最も近いものを、A～Dの文から1つずつ選び、記号で答えよ。

① 重い税に苦しむ農民の貧しい生活のようすを、山上徹良は「貧窮問答歌」によんだ。

② 東大寺南大門の金剛力士像などの力強い彫刻や、似絵とよばれる肖像画が生まれた。

③

(4.5×7)

(1)	地 頭
(2)	イ
(3)	ア
(4)	ウ→エ→ア→イ
(5)	ウ
(6)	① B ② A

8%

4%

70%

4%

4%

44

「消費生活の向上」をテーマに、保護者へのアンケートを実施したり、各種の企業などを訪問したりして、調査・研究をした。その結果を発表した時に使

用した資料をみて各問いに答えなさい。(50分)

(1) 資料I中の「A」にあてはまる、家庭を単位とし

た経済活動をあらわす最も適切な語句を書け。

(2) 資料I中の傍線部aに関して、次の①・②の問

に答えなさい。

① 消費者の利益の増進及び増進を目的に、1968年

に国が制定した法律は何か。

② ①のような法律について、法律案の提出から成立

までの国の手続きとして正しいものを、次から1つ選

び、記号で答えよ。

ア 法律案の提出は議員によってのみなされる。

イ 本会議の前に委員会で審議が行われる。

ウ 委員会でも可決されると他の議院に送られる。

エ 委員会では必ず公聴会が開かれる。

(3) 資料I中の傍線部bに「資料II」

で、資料IIは価格の内訳を示

したものである。資料II中の

Bにあてはまる語句は何か。

(4) 資料I中の下線部cに関して、次の①・②の問

に答えなさい。

① 企業の独占の形態のうち、図のよう

なものを何というか。

② 企業の独占を禁止した独占禁止法を適用

している行政委員会は何か。

(5) 資料I中の下線部dについて述べた次の文

の「          」にあてはまる語句を書け。

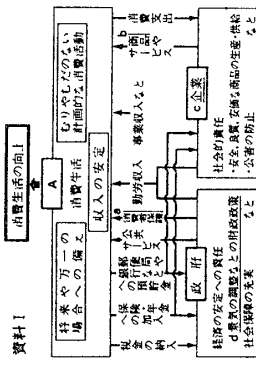
好景気が行きすぎ「          」が進むと、通貨

の発行は引き止められ、政府の支出は減らさ

れる。

(6) 消費活動をjする上で大切なことについて、「重

伝と広告」という語句を使って30字程度で書



45

(3.5×8)

(1)	家 計
(2)	① 消費者保護基本法 ② イ
(3)	① 利潤 (利益) ② コンツェルン
(4)	① 公正取引委員会 ② インフレーション
(5)	① 宣伝や広告にまどわ されず、安全、良質、 安価な商品を購入す ること

4%

11%

4%

8%

4%

26%

生産費	B	経費	B	経費	B
小売価格		小売価格		小売価格	
生産者価格		生産者価格		生産者価格	

て、資料IIは価格の内訳を示したものである。資料II中のBにあてはまる語句は何か。

(4) 資料I中の下線部cに関して、次の①・②の問に答えなさい。

① 企業の独占の形態のうち、図のよう

なものを何というか。

② 企業の独占を禁止した独占禁止法を適用

している行政委員会は何か。

(5) 資料I中の下線部dについて述べた次の文

の「          」にあてはまる語句を書け。

好景気が行きすぎ「          」が進むと、通貨

の発行は引き止められ、政府の支出は減らさ

れる。

144